

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果

1. 国語の調査結果の概要

問題の概要	問題形式	正答率
1 - 二 【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決法を書く。	記述式	20.0%
1 - 三 (2) イ 【川村さんの文章】の下線部イを、送り仮名に気を付けて書き直したのとして適切なものを選択する。	選択式	80.0%
1 - 四 【川村さんの文章】の特徴の説明として適切なものを選択する。	選択式	72.7%
2 - 一 【資料1】と【資料2】に書かれている内容として適切なものを選択する。	選択式	80.0%
2 - 四 資料を読み、運動と食事の両方について分かったことをもとに、自分ができそうなことをまとめて書く。	記述式	30.9%
3 - 三 敬語の使い方をまとめた【谷さんのノートの一部】の空欄に入る内容として適切なものを選択する。	選択式	27.3%

(1) 分析

正答率の高い項目と、正答率の低い3つの項目について分析を行った。

<正答率が高い>結果から、以下の内容が多くの子童へ身に付いていることが分かった。

- ①送り仮名に注意して、漢字を文章の中で正しく使う。
- ②文章の種類とその特徴について理解する。
- ③目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する。

以上の理由は、①に関しては教科を横断した指導によるものと考えられる。「比べる」は、算数科、社会科や理科の教科書にも多く書かれている。それに関連して、①②③の正答率が高い要因として「音読指導」に指導の重点を入れてきたからだと考える。声に出すことで、頭により入りやすくなったり、文章全体の大体を理解したりすることにつながったと考える。

<正答率が低い> 結果から、多くの子童が以下の内容について苦手意識をもつことが分かった。

- ① 図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する。
- ② 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる。
- ③ 日常よく使われる敬語を理解している。

以上の理由は、①②に関しては「書く」ということが「話す」「聞く」「読む」に比べて子童が最も知識や理解、表現力を使う内容だからだと考える。また、記述式に関しては「無回答」が20~35%と理解面に加えて意欲面での指導や支援も必要である。

(2) 対策

以下、正答率が低かった問題への対策について

◎「書きたい」「書くことが楽しい」と思う指導の工夫

自分の考えをもつことができている子童は多い。まずは、短文で身近な題材を基にした内容で文章を書くなどの工夫を行う。次に、安心して自分の考えをまとめることができる指導の工夫をする。①文章の型を示し、そこに自分の考えを当てはめる。②教師や文章を書くことが得意な子童の例を参考に、自分なりの考えをまとめる。以上のことを瑞江小学校が行っている「意見文」を通して指導をする。

◎教師が日常から今以上に敬語を使う場面を増やす工夫

教師という大人が活用している姿を見せ、子童に活用させていく。教科書の「敬語」が学習する内容では、教師と子童、子童と子童で敬語を活用した時間をつくる。また、日常場面では敬語を正しく使うことのできている姿を褒め、周りの子童に手本を示しながら広めていく。